工学部 大学院 ソシオテクノサイエンス研究部
ライフシステム部門 講師
薮谷 智規 やぶたに ともき

2008年８月から2009年１月まで、徳島大学国際教育研究交流資金による支援を受け、ニュージーランド国立オークランド大学理学部に滞在しました。

ニュージーランドの首都はウエリントン、一方、オークランドはニュージーランドにおける人口第一の都市であり、経済の中心といえる町です。また、西にタスマン海、東に太平洋が控えた港町であり、豊かな緑とヨットハーバーを有する風光明媚なところでもあります。

オークランド大学は、市の中心街に位置し、９学部を有する総合大学です。我が徳島大学工学部と交流協定を結んでおり、過去にも徳島大学から多くの先生が滞在した大学です。私は、理学部化学科 James Metson 教授のところに客員研究員として赴任しました。私のもともとの研究は分析化学と言って物質の濃度や組成、状態などの計測法を確立する分野ですが、折角の海外滞在なのでちょっと違った分野を試してみたいと、化合物の合成や物性評価を行う研究を行いました。皆さんご存じの「寒天」を利用した、ナノ金属粒子の合成と炭化についての研究です。寒天は温めると溶けて、冷やすと固まります。また、寒天の主原料であるアガロースは、水酸基という酸素と水素でできた部分を多く含むため、温めると金や白金など貴金属のイオンを還元してナノ金属を発生することが出来ます。温めてナノ金属を発生させた後に、冷やして固めて、さらに乾燥させると貴金属を含んだスカスカの乾燥寒天が出来ます。これを酸素のない状態で蒸し焼きにすると貴金属を含んだ炭素を得ることが出来ます。これは非常に多孔質であり、電極材料や触媒への応用が期待されています。

現地の研究スタイルには学ぶところも多くありました。それは、時間の使い方です。日本の研究者（私の周りですが）には、定時 5 時に帰る人はほとんどいませんが、ニュージーランドでは、皆５時には職場からいなくなってしまいます。彼らは、研究とプライベートをきっちり分けているのです。彼らの時間の使い方にはメリハリがついていますし、そのように時間の使い方がうまくないと公私ともに充実できない現状も垣間見えたりしました。（すなわち、家族サービスが必須！）日本人は、英語のハンディがあるためその分時間をかけなくてはなりませんし、勤勉なのか貧乏性なのか、時間をかけてじっくり取り組むように思います。

職員、学生との交流を通じて、現地の人々が日本の文化や日本人に対してとても良い印象を持っているように感じました。日本人の勤勉性、礼儀正しさや製品の優秀さなどは、海外の社会においても高く評価されているのです。これは、日本人の諸先輩方の努力の賜物だと思います。

James Metson 教授、Geoffrey Waterhouse 博士、並びに本仲純子教授（現徳島大学 AWA サポートセンター長）、林由佳子元助教、化学Ｂ１講座の皆様には、現地での生活、また留守中に大変お世話になり、研究に集中することが出来ました。感謝申し上げます。

（上図はオークランド大学構内の時計台、下図はオークランド港、周囲の島々と街を結ぶフェリー乗り場から見た港内の風景）

What's happening? 貴重な留学経験

大学院 先端技術科学教育部
建設創造システム工学コース 博士後期課程３年
明 揚 メイ ヨウ

日本には「若い時の苦労は買ってでもせよ」という言葉があります。若い時の苦労は将来のプラスになる、という意味です。日本の学生は、これをいつも心がけて勉強も仕事も頑張っていると思います。そして、私もそうしています。私は2005 年に母国を離れ、日本へ留学しました。すでに５年が経過し、生活の面でも勉強の面でも非常に充実しています。今振り返れば、いろいろな感情が心に湧いてきます。

日本と中国は隣り合っています。文化も似ているし、歴史的に両国がお互い学びあうことを中断したこともありません。最近では、中国から多くの学生が日本へ留学しています。日本は教育の面で進んでいるため、多くの学生は日本の先進の技術と理念を学び、中国に帰って中国の発展と進歩で大きな力を発揮しています。優秀な人物として有名なのは孫文で、彼は日本に留学した人の中で一番すばらしい人です。また、新中国の初代首相周恩来も来日留学生でした。中国の改革開放以来、日中間の経済協力と文化交流が深くなるにつれて、より多くの中国の若者が日本への留学を選んでいます。留学生たちは自分の実力と努力で日本の先端技術を勉強するとともに、自分の人生を変えようと夢見ています。私も彼らと同様、大きな希望と志をもって日本に来ました。

徳大での５年間の留学生活は長いようで短かったですが、いろいろな人と出会い、いろいろなことを経験し、これからの長い人生にとってすばらしい経験になったと思います。たくさんの優しい日本人と巡り合い、幸せに感じています。日本に来てから、日本社会と日本人の国民性の奥にあるものが理解できるようになってきました。また、私の考え方も変化し、自分の視野も広がったように思います。日本人の謹厳実直な考え方や行動にもだんだん慣れてきて、私の成長に大きな影響を与えていると思います。それと共に、自分の新たな人生観が確立されたような気がしています。それは母国で培った２０年余りの人生観の上に、５年間積み重ねた日本で学んだ人生観です。日本での留学経験は、今後の私の人生に影響をもたらすに違いないものとなりました。これからの人生に自信をいっぱい持っています。

日本での留学生活はあと半年です。私が日本に来てからずっと支えてくださった指導教官の山中英生教授、そして多くの日本の皆様の指導と温情に心より感謝いたします。将来帰国し、日本と中国の文化交流や友好のために貢献することで、日本の皆さんに恩返しをしたいと思っています。

明揚